

「高校生のための学びの基礎診断」への申請について(様式たたき台)

平成〇年〇月〇日

①事業者名							
②測定ツール名	※同一の測定ツールで複数レベルの難易度等の教材を提供している場合は、当該難易度等の名称も記載すること ※「高校生のための学びの基礎診断」の趣旨・目的を踏まえた名称とするよう配慮すること						
③主な対象者				④対象教科	国語	数学	英語
⑤申請する測定ツールの目的・概要							
⑥実施期間、年間実施回数				⑦実施方式(CBT/PBT)			
⑧試験時間(分)	国語	数学	英語	⑨受検料		⑩標準返却期間	
⑪URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)							

事務担当者名			所属部署		
連絡先	(電話番号) (FAX) (E-mail)				
住所					

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

(様式 2)

認定要件への適合性の申告内容について(様式たたき台)

事業者名:

測定ツール名:

対象教科:

※「様式 2」は対象教科毎・難易度等毎(同一測定ツールで複数レベルの難易度等の教材を提供している場合)に作成すること。なお、複数教科で一つの測定ツールである場合であって、全教科共通の取扱いとしている事項については、全教科において回答するとともに、当該取扱いが全科目共通である旨を明記すること。

I. 出題に関すること

(1) 出題の基本方針

※主な対象者、測定しようとする資質・能力(下記の記載例参照)、出題範囲、主として知識・技能を問う問題と主としてこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を問う問題の出題方針、学習指導要領との対応、出題形式、難易度その他出題に関する事項の概略を記載すること。

※出題範囲については、共通必修科目を中心に出题すること、義務教育段階の内容を含むことについて記載すること。ただし、学習進度に配慮して出題範囲を設定する場合において、受検時期に応じて共通必修科目からの出題を少なく設定したり、義務教育段階の内容を含まなくても差し支えない。

<「測定しようとする資質・能力」の記載例>

国語:「話すこと・聞くこと」に関する力、「書くこと」に関する力、「読むこと」に関する力 等

数学:「数と式」に関する力、「図形と計量」に関する力、「二次関数」に関する力、「データ分析」に関する力 等

英語:「聞くこと」に関する力、「読むこと」に関する力、「話すこと」に関する力、「書くこと」に関する力 等

(2) 構成等

※構成等について、下記2つの観点から記載すること。

① 出題形式

※選択式、短答式、記述式のバランスについて記載すること。

※リスニング試験やスピーキング試験を実施する場合は、その旨や測定方法、活用する機器の種類等もあわせて記載すること。

② 出題範囲

※高等学校段階の学習内容と義務教育段階の学習内容とのバランス、各領域のバランスについて記載すること。

(3) 難易度設定の考え方・方法

※難易度設定にあたっての予備調査など具体的な方法も記載すること

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

(4)基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

※日常的に触れる機会の多い素材を用いた問題作成、CBT方式での動画や音声を用いて興味・関心を引き出す問題作成、進学後の学修や就職後の社会生活の場面を意識させる問題設定、義務教育レベルの問題から高校レベルの問題の体系的な出題など具体的な方法について記載すること。

(5)その他特長

Ⅱ. 結果提供に関すること

(1)受検者個人への結果提供内容

※結果提供項目を列挙すること。

※学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善に資する結果提供がなされることについて、具体的な内容を記載すること。

※受検者本人に対し、学習意欲の喚起に資する情報提供の工夫がなされていることについて、具体的な内容を記載すること。

(2)学校への結果提供内容

※結果提供項目を列挙すること。

※学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善に資する結果提供がなされることについて、具体的な内容を記載すること。

※学校としての指導の工夫・充実に資する情報提供の工夫がなされていることについて、具体的な内容を記載すること。

(3)試験等の結果(正答状況やスコア等)に対する評価の考え方と分析の手法

※結果表示方法とその算出方法、評価の示し方とその分析手法(過去の成績との比較方法等)について、それぞれ具体的な内容を記載すること。

Ⅲ. 運営に関すること

(1)問題の質を確保するための方法

※出題内容の妥当性・信頼性の検証方法、作問の体制や方法など、具体的な内容を記載すること。

(2)学校における実施方法

※学校において実施可能で、学校にとって過度な負担が掛からない方法で実施されることについて、具体的な内容(実施支援体制(問い合わせ対応、トラブル対応等)など)を記載すること。

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

※学校の実状に応じて実施できる方法であることについて、具体的な内容（学校単位で受検できるか、教科単位で受検できるか、継続的に受検できるかなど）を記載すること。
※利用する学校において担うべき役割・作業等について、具体的な内容を記載すること。

(3)採点の方法と体制

※採点結果の信頼性向上の観点を含め、採点の方法と体制について記載すること（採点結果の信頼性向上に資する方策例：採点ガイドラインの作成、採点者の採用基準の明確化・研修の実施、採点プログラムの開発、複数の採点者によるダブルチェック、設問ごとの採点者の配置等）。

(4)情報管理体制

※情報セキュリティ・ポリシー、プライバシーマーク等

IV. 情報開示に関すること

※下記の「学校等が測定ツールを選択するのに資する情報」について具体的な内容を記載すること。

(1)障害のある受検者等への配慮

(2)事前／事後学習教材の有無、内容

(3)学習状況等のアンケートの有無、内容

(4)個人受検の可否

(5)問題の公表に対する考え方

(6)その他

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

(様式3)

認定要件への適合性を示す書類等一覧について(様式たたき台)

事業者名:

測定ツール名:

対象教科:

「様式3」は対象教科毎に作成すること。

提出書類は申請書とあわせて公表。

I. 出題に関すること

<提出必須の書類等>

書類等の内容
測定しようとする資質・能力の具体的内容について【様式4】
サンプル問題(各教科につき大問2題)【様式5】

<提出任意の書類等> ※様式2における「I. 出題に関すること」の記載内容を補足する書類等がある場合に提出。

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定要件				
			I. (1)	I. (2)	I. (3)	I. (4)	I. (5)

II. 結果提供に関すること

<提出任意の書類等> ※様式2における「II. 結果提供に関すること」の記載内容を補足する書類等がある場合に提出。

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定要件	
			II. (1)	II. (2)

III. 運営に関すること

<提出必須の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
実施要項(試験時間、実施方式、実施期間、受検料、標準返却期間等)		
学校用実施マニュアル		

<提出任意の書類等> ※様式2における「III. 運営に関すること」の記載内容を補足する書類等がある場合に提出。

書類等の内容	書類等の名称	資料番号

IV. 情報開示に関すること

<提出任意の書類等> ※様式2における「IV. 情報開示に関すること」の記載内容を補足する書類等がある場合に提出。

書類等の内容	書類等の名称	資料番号

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

「高校生のための学びの基礎診断」への申請について(様式たたき台)

平成〇年〇月〇日

①事業者名	(株)△△社						
②測定ツール名	□□診断(A2レベル)						
③主な対象者	中学校「英語」の学習内容を含めて基礎学力の定着度合いを確認したい高校1年生・2年生			④対象教科	国語	数学	英語
⑤申請する測定ツールの目的・概要	<p>英語の基礎学力の定着度合いを診断することを目的として、中学校「英語」の学習内容を含めて基礎学力の定着度合いを確認したい高校1年生・2年生を主な対象とし、英語の「聞くこと」(Listening)に関する力、「読むこと」(Reading)に関する力、「話すこと」(Speaking)に関する力、「書くこと」(Writing)に関する力を測定します。</p> <p>「A2レベル」では、CEFR「A2」程度を中心とした難易度を設定します。具体的には、ごく基本的な個人情報や家庭情報、買物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現を理解でき、簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる程度の英語力が定着しているかどうかを診断するための問題を出题しています。</p>						
⑥実施期間、年間実施回数	中学校「英語」の学習内容と高等学校「英語」の「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容の比率が異なる3回分の診断を準備しており、受検時期は各学校の学習進度に合わせて選択いただくことが可能です(受検時期の目安として、第1回を高1の6月頃、第2回を高1の1月頃、第3回を高2の6月頃に受検いただくことをお示しております。)			⑦実施方式(CBT/PBT)	CBT又はPBT(選択可)		
⑧試験時間(分)	国語	数学	英語	⑨受検料	▲千円/回	⑩標準返却期間	1か月程度
			L:20分 R:20分 S:10分 W:20分				
⑪URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	http://■■■■						

事務担当者名	●● ●●	所属部署	●●部●●課
連絡先	(電話番号)	●●-●●●●-●●●●	
	(FAX)	●●-●●●●-●●●●	
	(E-mail)	●●●●@●●●●	
住所	●●県●●市●●		

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

認定要件への適合性の申告内容について(様式たつき台)

事業者名:(株)△△社
 測定ツール名:□□診断(A2レベル)
 対象教科:英語

I. 出題に関すること

(1)出題の基本方針

- 英語の基礎学力の定着度合いを診断することを目的として、中学校「英語」の学習内容を含めて基礎学力の定着度合いを確認したい高校1年生・2年生を主な対象とし、英語の「聞くこと」(Listening)に関する力、「読むこと」(Reading)に関する力、「話すこと」(Speaking)に関する力、「書くこと」(Writing)に関する力を測定します。
- 出題範囲は、中学校「英語」の学習内容と高等学校「英語」の「コミュニケーション英語Ⅰ」とし、日常生活で実際に英語でコミュニケーションを図る場面を意識させたり、英語を日常生活で使用する人々の生活や文化の理解が深まるような素材を用いたりして、学習指導要領が求める言語活動に対応した問題を出題します。
- 診断は3セットの内容で実施されます。第1回では中学校「英語」の学習内容が7割程度ですが、徐々に「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容の割合が多くなり、第3回では「コミュニケーション英語Ⅰ」が9割程度出題されます。受検時期は各学校の学習進度に合わせて選択いただけます。
- 出題形式は選択式・短答式・記述式を組み合わせたものとし、主として知識・技能を問う問題に加え、主としてこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を問う問題を出題します。後者のうち「書くこと」(Writing)については、15～25語程度の記述式問題及び40～60語程度の記述式問題を出題します。
- 全体的な難易度は、「A2レベル」、「B1レベル」の2パターンを設定しています。「A2レベル」は、CEFRの「A2」程度を中心に測定できるよう設計しており、ごく基本的な個人情報や家庭情報、買物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現を理解でき、簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる程度の英語力が定着しているかどうかを診断するための問題を出題しています(「B1レベル」は、CEFRの「B1」程度であり、仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解でき、その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができ、また、身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋のおった簡単な文章を作ることができる程度の英語力が定着しているかどうかを診断するための問題を出題しています。)
- 実施方式は、学校のICT環境の状況等に応じて、CBT、PBTの選択が可能です。

(2)構成等

①出題形式

Listening: 全て選択式(20問程度)。PBTの場合は英語リスニング専用のICプレーヤーによる音声放送(貸出あり)

※ 本資料は、検討段階のたつき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

Reading：選択式9割程度（20問程度）、短答式1割程度（2問程度）

Speaking：PBTの場合はタブレットによる録音形式（貸出あり）（6問程度）

Writing：全て記述式（2問程度（15～25語程度、40～60語程度））

※CBT方式を選択した場合は、4技能測定は全て学校のコンピューター、ヘッドフォンマイクを活用しての実施となります。

②出題範囲

<第1回（受検時期の目安：高1、6月頃）>

- ・中学校「英語」の学習内容7割程度、「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容3割程度
- ・Listening：20分、Reading：20分、Speaking：10分、Writing：20分

<第2回（受検時期の目安：高1、1月頃）>

- ・中学校「英語」の学習内容3割程度、「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容7割程度
- ・Listening：20分、Reading：20分、Speaking：10分、Writing：20分

<第3回（受検時期の目安：高2、6月頃）>

- ・中学校「英語」の学習内容1割程度、「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容9割程度
- ・Listening：20分、Reading：20分、Speaking：10分、Writing：20分

(3)難易度設定の考え方・方法

○■■■検定等の結果によりCEFRのA1、A2、B1相当の能力を有することがわかっている▲千人を対象としたモニター調査を実施し、各問題項目の難易度を設定しています。

○その上で、CEFRのA2程度を中心に十分な弁別性をもって測定することができ、各回の難易度が等しくなるよう、弊社が策定したテスト仕様書に基づき問題項目を設定しています。

(4)基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

○語彙・分量等が多様な素材を用いて、中学校「英語」の学習内容から高等学校「英語」の「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容の基礎学力の定着度合いを把握できるような設計とします。

○受検者が日常的に触れる機会の多い素材を活用し、買物、旅行、電話での対応、手紙や電子メールのやりとりなど、実際に英語でコミュニケーションを図る場面を意識させる問題設定としています。

(5)その他特長

○問題文は全て日本語で記載しています。

○本診断全体を通して一つのストーリーとなっており、受検者自身が主人公となった感覚で楽しみながら問題を解き進めていくことができます。

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

Ⅱ. 結果提供に関すること

(1) 受検者個人への結果提供内容

< 結果提供項目 >

【全体】

①問題、②正答・正答例、③解答用紙、④総合得点、⑤総合評価・能力記述文、⑥4技能のバランス、⑦総合得点・総合評価の推移

【技能別】

⑧技能別得点、⑨要素別得点、⑩技能別評価・能力記述文、⑪技能別得点・技能別評価の推移、⑫学習のアドバイス、⑬復習方法

< 個別の内容 >

【全体】

- ①問題：受検終了後に配布します。
- ②正答・正答例：受検終了後に配布します。それにより、即座に自己採点を行い、誤答箇所とその正答例を確認することができます。
- ③解答用紙：自己採点では確認の難しい記述式問題の採点結果を確認することができます。Writingについては、添削結果とより適切な英語表現とするためのアドバイスが記載されていますので、具体的にどのような間違いをしていたのか、どうすればよりよい英語表現とすることができるのかを把握することができます。
- ④総合得点：合計200点満点（各技能50点満点）で示します。
- ⑤総合評価・能力記述文：CEFRの「A1以下」、「A2」、「B1以上」の3段階で総合的な評価を示すとともに、何ができるかを記述文で示します。
- ⑥4技能のバランス：特にどの技能に課題があるか、その改善のためにどのような学習活動をしていく必要があるかをわかりやすく解説します。
- ⑦総合得点・総合評価の推移：複数回の受検を通じて総合得点・総合評価の推移を示すことで、学力の定着度合いの伸びをお示しします。それにより、日々の学習の成果を実感することができます。

【技能別(Listening, Reading, Speaking, Writing)】

- ⑧技能別得点：各技能50点満点
- ⑨要素別得点：各技能を構成する要素（様式4「測定しようとする資質・能力の具体的内容」参照）別得点を示すことにより、何ができていて、どこにつまずきがあるかを具体的に示します。
- ⑩技能別評価・能力記述文：CEFR-Jの「A1.1以下」、「A1.2」、「A1.3」、「A2.1」、「A2.2」、「B1.1」、「B1.2以上」の7段階で技能別の評価を示すとともに、何ができるかを記述文で示します。
- ⑪技能別得点・技能別評価の推移：複数回の受検を通じて技能別得点・評価の推移を示すことで、学力の定着度合いの伸びをお示しします。それにより、日々の学習の成果を実感することができます。
- ⑫学習のアドバイス：何が課題であり、今後どのような学習をすることが望ましいかということについて、前向きなアドバイスをフィードバックします。また、学習を継続することによって、今後どのようなことができるようになるかという未来の姿を具体的に示すことで、英語の使用場面を想起させ、受検者の学習に向けた動機付けを図ります。
- ⑬復習方法：苦手分野の克服のため、付属の類似問題集（A2レベル）の中から、正答できなかった問題の類似問題を示し、苦手分野の克服を促します。さらに、得意分野の更なる強化のため

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

め、付属の類似問題集（B1 レベル）の中から、正答できていた問題のもう 1 レベル上の類似問題を示し、得意分野のさらなる学力向上を促します。

(2) 学校への結果提供内容

< 結果提供項目 >

(a) 学年別・クラス別の概況・分析結果、指導のアドバイス

【全体】

①総合得点平均、②総合評価分布、③4 技能のバランス、④総合得点平均の推移

【技能別】

⑤技能別得点平均、⑥要素別得点平均、⑦技能別評価の分布、⑧技能別得点平均の推移、⑨指導のアドバイス

(b) 個人成績（「(1) 受検者個人への結果提供内容」参照）

< 個別の内容 >

(a) 学年別・クラス別の概況・分析結果、指導のアドバイス

【全体】

①総合得点平均、②総合評価分布：学年・クラス単位で、総合的な傾向がわかります。

③4 技能のバランス：学年・クラス単位で、特にどの技能に課題があるか、どの技能を強化していく必要があるかがわかります。

④総合得点平均の推移：学年・クラスの学力の定着度合いの伸びを示すことで、総合的な学習の成果がわかります。

【技能別】

⑤技能別得点平均、⑥要素別得点平均、⑦技能別評価の分布：学年・クラス単位で、技能別の傾向がわかります。

⑧技能別得点平均の推移：学年・クラスの学力の伸びを示すことで、技能別の学習の成果がわかります。

⑨指導のアドバイス：学年・クラス単位で、何が課題であり、今後どのような指導をすることが望ましいかということについて、アドバイスをフィードバックします。

(3) 試験等の結果(正答状況やスコア等)に対する評価の考え方と分析の手法

○診断結果は、各技能を 50 点満点の均等バランスにより評価し、合計 200 点満点のスコアで表示します。

○4 技能の総合評価は CEFR の「A1 以下」、「A2」、「B1 以上」の 3 段階で示すとともに、何ができるかを記述文で示します。技能別評価は、CEFR-J の「A1.1 以下」、「A1.2」、「A1.3」、「A2.1」、「A2.2」、「B1.1」、「B1.2 以上」の 7 段階で示すとともに、何ができるかを記述文で示します。

○スコアと評価の対応については、事前のモニター調査の結果等を踏まえて設定しています。第 1 回、第 2 回、第 3 回の評価の推移により、学習の成果を把握することができます。

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

Ⅲ. 運営に関すること

(1) 問題の質を確保するための方法

○弊社では、技能別に問題項目で測定する具体的な資質・能力、素材等を設定したテスト仕様書を策定しており、これに基づき、個々の問題項目を作成しています。問題項目の候補について、**■**■検定等の結果により CEFR の A1、A2、B1 相当の能力を有することがわかっている**▲**千人を対象としたモニター調査を実施し、社外の専門家の参画を得て構成する委員会において、問題項目の妥当性・信頼性を検証しております。

○問題項目はテスト仕様書に基づき作成しております。具体的には、弊社の英語技能測定の担当部署の職員、高等学校の英語教員、テスト理論の専門家等からなる作問体制を構築しています。

(2) 学校における実施方法

○学校での実施にあたり、事前に対応マニュアルを配布します。事前不明な点を確認したい場合や当日トラブルが発生した場合の対応として、本診断専用の問い合わせ窓口（電子メール・電話）を設けています。

○学校単位、クラス単位で受検することが可能です。また、特定の回を選択して受検（例：第2回のみ受検）することも可能ですが、本診断は定期的に学習の成果を把握し、学力の伸びを示すことで学習意欲の喚起を促すことをねらいの一つとしているため、第1回～第3回をあわせて受検することを推奨しております。

○学校には、本診断の実施当日の運営を行っていただきます。具体的には、PBT の場合は、問題冊子・解答用紙・IC プレーヤー・タブレットの配布、実施時の監督、解答用紙・IC プレーヤー・タブレットの回収と弊社への送付を行っていただきます。CBT の場合は、本診断専用ソフトのダウンロード・事前の動作確認、実施時の監督、解答データの弊社の送信を行っていただきます。

(3) 採点の方法と体制

○弊社では、採点ガイドラインに基づき、採点結果の信頼性の向上、採点の合理化、迅速化を図るため、種々の取組を実施しています。具体的には、選択式の問題については自動採点を行い、短答式・記述式の問題、「話すこと」(Speaking)に関する問題の採点については、弊社の熟練した採点者（定期的に研修を実施）が、モニター調査の結果に基づき設定した採点基準に基づき、採点を行っています。また、採点結果の信頼性の更なる向上のため、定期的なサンプリング調査、設問ごとの採点者の配置を実施しています。加えて、採点の合理化・迅速化に向け、答案のデジタル化による分割採点を実施しています。

(4) 情報管理体制

○弊社の定めたセキュリティ・ポリシーに基づき、本診断に係る情報管理体制を構築し、徹底した情報管理を行っています。

○弊社は、一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）の審査を受け、20◆◆年◆◆月、プライバシーマーク付与事業者として登録されました。

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

IV. 情報開示に関すること

(1) 障害のある受検者等への配慮

○弱視等の視覚障害のある受検者の場合、点字や拡大文字で記載された問題冊子の提供等の対応が可能です。

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

○事後学習教材として、類似問題集（A2 レベル）及び類似問題集（B1 レベル）を提供します。

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

○学校外において、どの技能の学習をどのような方法で実施しているかということについてアンケート調査を実施します。

(4) 個人受検の可否

○個人で受検いただくことも可能です。

(5) 問題の公表に対する考え方

○実際の本診断の問題は受検者・受検校にのみ提供しています。

(6) その他

○弊社による分析結果に加え、スコアデータを加工可能な形（エクセルデータ）で返却しますので、各学校において独自の分析を行っていただき、今後の指導改善に役立てていただくことが可能です。

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

(様式3)

認定要件への適合性を示す書類等一覧について(様式たつき台)

事業者名:(株)△△社
 測定ツール名:□□診断(A2レベル)
 対象教科:英語

I. 出題に関すること

<提出必須の書類等>

書類等の内容
測定しようとする資質・能力の具体的内容について【様式4】
サンプル問題(各教科につき大問2題)【様式5】

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定要件				
			I.(1)	I.(2)	I.(3)	I.(4)	I.(5)
モニター調査の結果分析(難易度の設定)	□□診断(A2レベル)モニター調査結果分析(I. 難易度の設定について)	資料1-1	○				

II. 結果提供に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定要件	
			II.(1)	II.(2)
帳票(生徒向け)	□□診断結果概要(生徒向け)	資料2	○	
帳票(学校向け)	□□診断結果概要(学校向け)	資料3	○	

III. 運営に関すること

<提出必須の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
実施要項(試験時間、実施方式、実施期間、受検料、標準返却期間等)	□□診断(A2レベル)実施要項	資料4
学校用実施マニュアル	□□診断(A2レベル)学校運営マニュアル	資料5

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
モニター調査の結果分析(信頼性・妥当性の検証)	□□診断(A2レベル)モニター調査結果分析(II. 信頼性・妥当性の検証について)	資料1-2
情報セキュリティポリシー	(株)△△社情報セキュリティポリシー	資料6

IV. 情報開示に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
事後学習教材のサンプル	□□診断(A2レベル)類似問題集(サンプル)	資料7-1
事後学習教材のサンプル	□□診断(B1レベル)類似問題集(サンプル)	資料7-2

※ 本資料は、検討段階のたつき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。